

第2回総合計画策定懇話会における基本構想原案に対する主な意見と対応

No.	意見等	対応案
1	戦略1の秋田県のブランドイメージの例示として「なまはげ」は適当か。	秋田市の「竿燈」も観光で取り上げているが、全国レベルでは案外知られていないことから、広域観光も視野にして有名な「なまはげ」ともつなげていく。
2	1章1節2項「市内企業の活性化の推進」の「商業・サービス業」の対応にある「高齢者の増加などに対応した新たなサービス」とは何を想定しているか。	成長戦略事業として、買い物が困難な市民を対象にしたサービスを実施する事業者の支援などを予定している。
2	2章2節5項「交通機能の充実」の対応にある「誰もが利用しやすい公共交通の実現と市民の移動手段の確保」は必要。	【推進計画】における施策として、市民の移動手段の確保や、生活バス路線の維持を盛り込む。
3	5章2節1項「社会教育の充実」について、従来の公民館では乳幼児学級、婦人学級、高齢者学級などを実施し、地域との結びつきを強めてきた。市民SC整備で公民館は複合化されるようだが、施設整備の考え方と、地域課題の解決につながる職員配置を考え、方針を示していくべきではないか。	公民館活動は、その成果を引継ぎながらも、市民協働により市民との連携で成果を上げていくものとする。 市民SC整備などは【推進計画】で方針を示す。
4	19-21期の総括を見て、基本構想の表現全体に危機感がないと感じる。前計画を振り返って、今後5年間の施策を明示すべきではないか。	危機感の裏返しは成長戦略であると考えている。 将来都市像は、行政のベースであり、領域が広いこともあり、一般的な表現となることを了解願いたい。
5	1章3節1項「観光振興の推進」について、秋田市ならではのものが見えない。力強く、具体的なイメージを盛り込むべき。	表現を修正したほか、具体の事業についても、【推進計画】に盛り込む。
6	1章3節2項「にぎわいの創出」について、現在のポートタワーににぎわいにつながるパワーがあるか。今後5年間にやるべき内容が必要ではないか。	現在も、「マルシェdeポート土崎」など様々な取組を行っており、引き続きにぎわいづくりに努める。
7	5章1節2項「市民文化の振興」は、現状分析が甘いと感じる。市民文化の振興はまだ厳しい。表現を改める必要がある。	幅広い市民が、文化活動に参加できるよう、環境づくりに努める。
8	5章1節3項「生涯スポーツの推進」について、にぎわいにつなげるのであれば、プロスポーツへの支援をすべき。どのような表現を盛り込むのか。	成長戦略で、クラブスポーツの支援を取り上げ、【推進計画】に具体の事業を盛り込む。
9	竿燈を売り込む戦術を考える必要がある。具体の中身を検討してほしい。	成長戦略で秋田市ならではの観光戦略の構築を取り上げ、【推進計画】に具体の事業を盛り込む。
10	自治体としての「行政ブランド」を意識してはどうか。計画推進にあたっての視点にある「市民協働」について、「市が入り込む、市が役割を担う」との表現が必要。市民と市と一緒にどう取り組んでいくか標記するべきと思う。そうした取り組みも自治体としてのブランドになり得る。	市民協働の視点を核に、新行政改革大綱においても公共サービスのあり方、地域との関わりなどを検討しており、総合計画とあわせて検討を進める。 「視点」を置く場所については、構成を見直した。

11	第11次総合計画に、「地域担当職員制度の創設」という記載があるが、次期総合計画では、設置の実現に向けた検討はしないのか。	町内会機能をより有効に果たすためにも今後検討する。
12	成長戦略5「エイジフレンドリーシティの実現」について、横文字は高齢者にはわかりづらい。工夫してほしい。	注釈のほかに、(高齢者にやさしい都市)という記述を追加した。
13	観光行政の方針を市は明確に示すべきである。民間のノウハウを入れる発想も必要ではないか。	【推進計画】において、成長戦略事業として観光アドバイザーの起用や、旅行会社等とのタイアップ、民間事業者とのネットワーク構築等について盛り込む。
14	成長戦略2「地域産業の競争力強化」に「Ⅱ環日本海貿易の促進」があるが、新潟・富山など他の地域との協調も必要であり、そうした点も視野にいれるべき。	具体の事業展開にあたっては、他地域との協調も視野に入れて進める。
15	現在市が契約している観光アドバイザーの意見が計画に反映されるようにすべきと思う。また、戦略には「ターゲット」が必要と思う。	観光アドバイザーの意見を反映した取組や事業を【推進計画】に盛り込む。
16	市民が求めているものは、市民意識調査では「雇用」である。戦略はそれぞれ関連するが、どこに重きをおいていくかで、市民が求めるものと違ってしまう可能性もある。最初に市民が求めているものを戦略に持ってくるべきではないか。	成長戦略が構成上先にあると、全体の中のどこに力点を置くのかがわかりづらいため、将来都市像(全体)を示した後に、成長戦略という構成にした。
17	成長戦略4「環境立市あきたの実現」における背景に、温室効果ガス排出量「25%削減」があるが、この数値は国の指標としても今後変わる可能性がある。「大幅に」など表現を工夫した方がよい。	表現を改めた。
18	成長戦略4の重点プログラムⅢ「環境付加価値」は、市民にはわかりづらい。用語解説など工夫が必要と思う。	注釈を設けた。
19	にぎわいだけでなく、今の資源を大切にすることも必要。日常的に多世代が交流する仕掛けが必要と感じる。子育てなどは特に人的資源(市民)の活用を取り込んでくべきと思う。 また、秋田市は自然が豊富。今あるものを活用するという視点、考え方も盛り込むべきではないか。	【計画推進にあたっての視点】の「家族・地域の絆づくり」の文章に多世代交流についても追加した。
20	「計画推進にあたっての視点」は、計画全編に通底するものなので、もっと前に出すべきではないか。	構成を見直した。
21	「観光」の対応に「市民一人ひとりの質の高いホスピタリティ」の記載があるが、秋田市民のホスピタリティは低いとは思わない。県民性である純朴・素朴であり、それを生かすことで良いと思う。この記述は不要ではないか。	「観光客に対する質の高いホスピタリティ醸成」に表現を改めた。
22	脚注にある「男女共生社会」では「性別だけではなく」との表現となっているが、この表現は広すぎてわかりづらく、再検討すべきと思う。	今後の検討課題とする。
23	「高齢者をスタンダードな対象と捉え」との表現があるが、違和感がある。スタンダードの表現は改めるべきと思うが。	表現を改めた。